

カテイ × カテイ

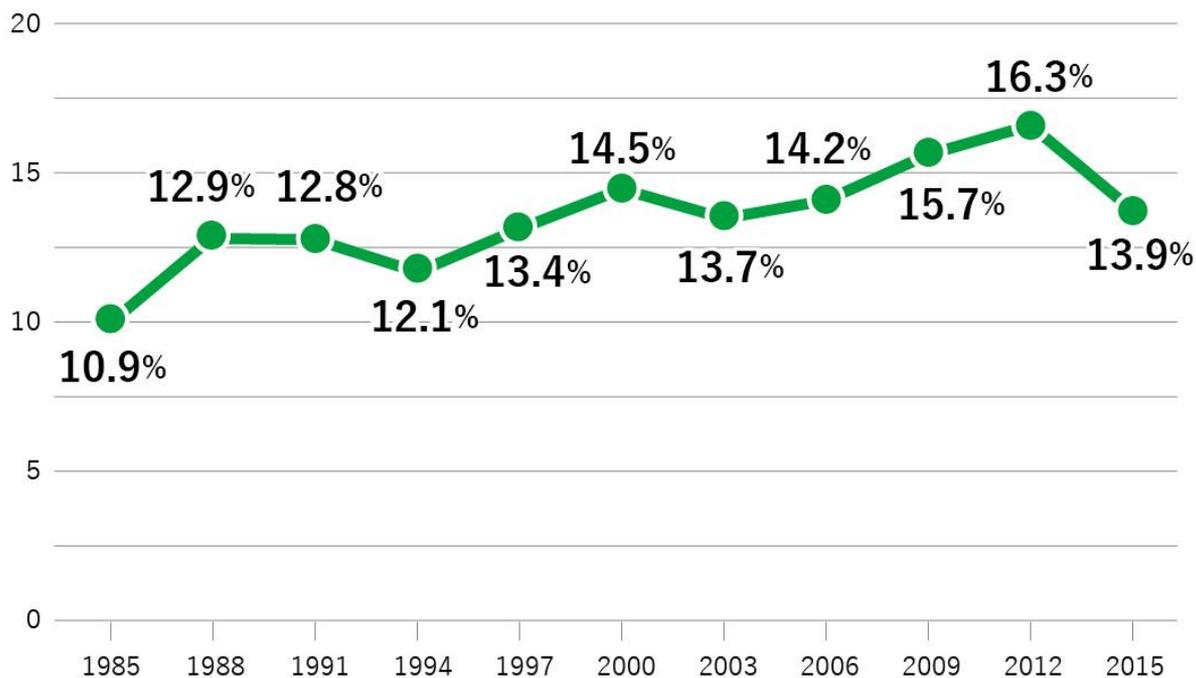
—空き家から未来をつくる—

目次

1. はじめに
2. 現状分析・課題
3. 政策提案
4. おわりに

はじめに 子どもの貧困

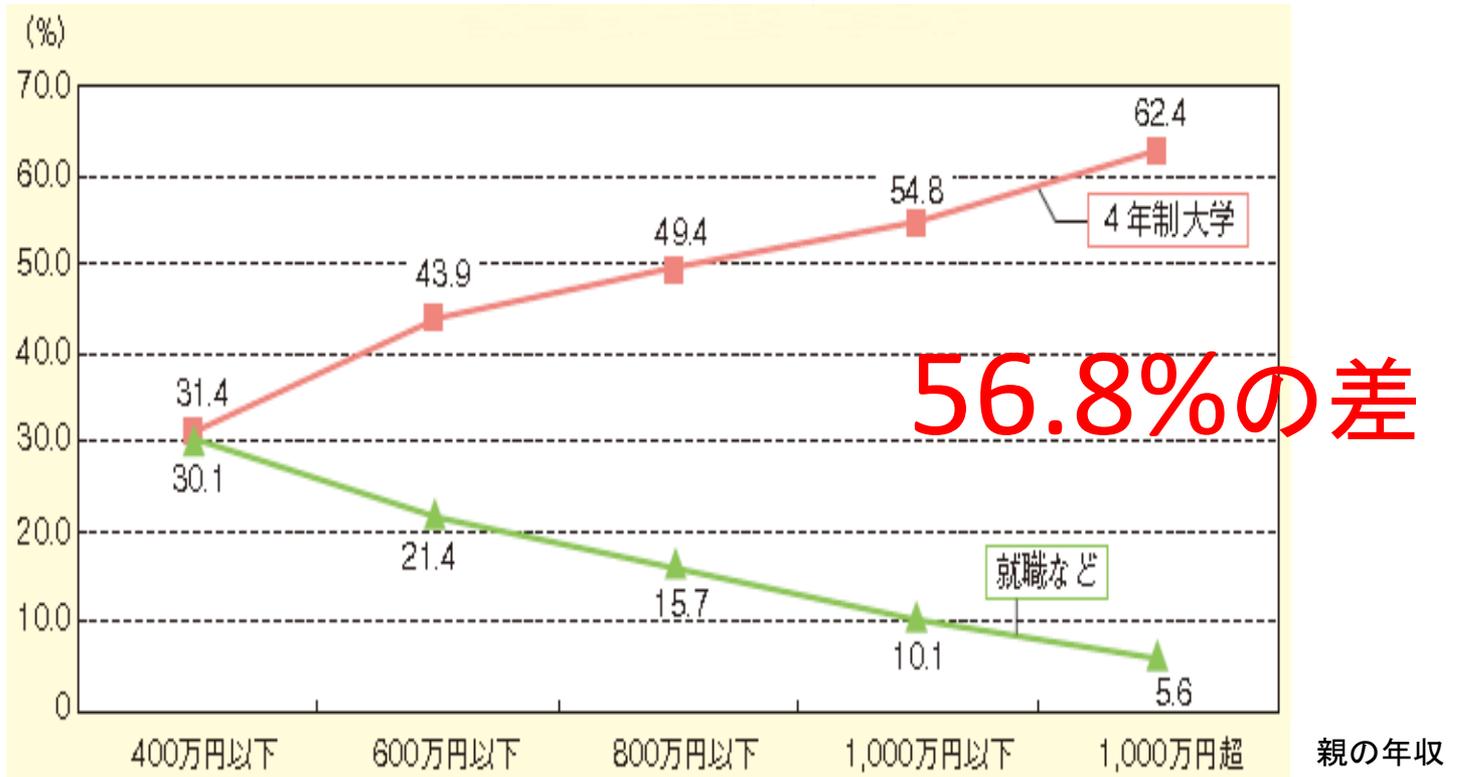
子どもの相対的貧困率の推移



厚生労働省「平成28年国民生活基礎調査」より

親の収入と子の高校卒業後の進路

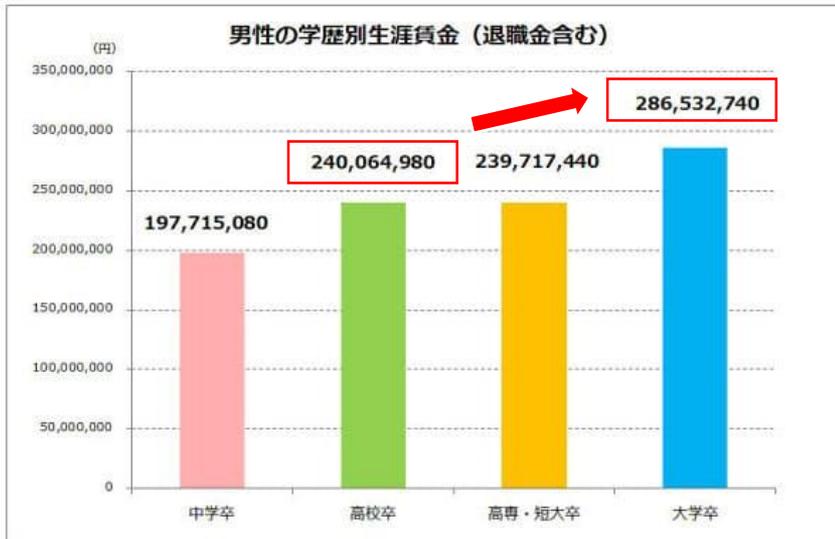
子の進路



「平成21年度文部科学白書」より

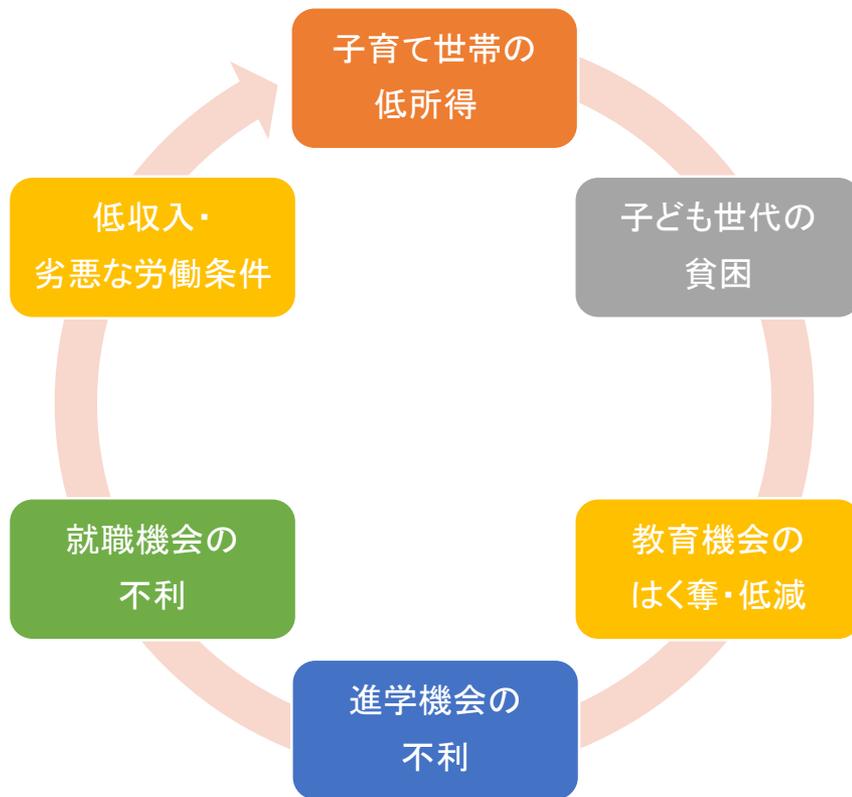
学歴別生涯賃金

男女ともに高校卒と大学卒で**4000万円以上**の開き



日経電子版「学歴なんて関係ない」の真実より

子どもの貧困の再生産サイクル



問題の背景には・・・

親の所得格差と
子どもの教育格差の
相関関係

エフェクティブスクール論

- アメリカ教育学者ロナルド・エドモンズが提唱
- 人種や階級などの一定社会集団間で学力格差を縮小または克服している学校
=「Effective School (効果のある学校)」
- Effective School に分類される学校の特徴を抽出
Ex. 校長のリーダーシップ／教員集団の意思の一致
安全で静かな学習環境／公平で積極的な教員の姿勢
学力測定とその活用etc.
- すべての学生への「処遇の平等」から
貧困層の低学力生徒への「実質的機会の平等」の確保への転換
⇒ 貧困・低学力に対する教育資源の重点的配分に正当化原理を提供

子どもの貧困対策に関わる法制度

- 子どもの貧困対策の推進に関する法律（平成25年6月成立）
 - 法律の目的
 - =子どもの将来がその生まれ育った環境によって左右されることのないよう、
健やかな育成環境の整備・教育の機会均等を図ること
 - 子どもの貧困対策における国・地方公共団体・国民の責務を明示
- 子供の貧困対策に関する大綱（平成26年8月閣議決定）
 - 重点施策として
 - 教育の支援・生活の支援・保護者に対する就労支援・経済的支援

目次

1. はじめに
2. 現状分析・課題
3. 政策提案
4. おわりに

子どもの貧困を解消するために

①

現在行われている民間での主な取り組み

• 子ども食堂

2016年6月：全国で103ヶ所

(近畿11ヶ所)

•→2018年12月：全国で323ヶ所

(近畿33ヶ所)

(「子ども食堂ネットワーク」掲載数)

無料又は低価格で食事提供

運営場所は

公共施設や個人宅、飲食店など様々

開催頻度も組織によって様々

週1回～月1, 2回

一部には宿題の見守りなどの

学習支援も

子どもの貧困を解消するために

②

現在行われている民間での主な取り組み

•無料学習塾

- 対象は小学生～中学生が中心
- 生活保護受給世帯を対象としているところも
- 運営は主に教育経験のある方(教員退職者等)や学生ボランティア

子どもの学習支援事業の実施状況



(「平成28年度 生活困窮者自立支援制度の実施状況調査」)

子どもの貧困を解消するために

③

行政による民間活動支援の取組み

- 「**京都市子どもの居場所づくりアドバイザー事業**」(京都市)
 - 子ども食堂や学習支援などの運営についての相談支援や助言の実施
- 「**スタディサポート事業(鳩嶺教室)**」(八幡市)
 - 低所得世帯の市立中学校の生徒に対して、民間教育機関を活用した指導力の高い講師による学習機会を提供
- 「**地域未来塾**」事業(文部科学省・厚生労働省)
 - 中学生・高校生等を対象に、教員OBや大学生など地域住民の協力やICTの活用等による学習支援を実施

インタビュー調査

MJキッズキッチン

- 京都市伏見区向島
ニュータウン
- 毎月月末の土曜日開催



小栗栖無料塾

- 京都市伏見区小栗栖
の集会所
- 毎週水曜日開催
- 16時 - 18時半



インタビュー調査から 明らかになった課題

MJキッズキッチン

- 食事がメインとなるため、学習面でのサポートは行っていない。
- 運営費・会場の確保
- 人手不足

小栗栖無料塾

- 学習の中心は宿題かドリル
- 助成金に依存できない
- 教育指導員の確保

共通する課題は...

- ①組織的・安定的な運営
 - ②多様なアクターによる協力ネットワークの構築
- そして、③教育資源の圧倒的な不足

子どもの貧困における根本的な問題と本チームが捉えるもの

①子ども食堂では**貧困の表面的な対処**にとどまる; 貧困対策の出発点であってゴールではない

⇒あくまでも対症療法的な方策

②無料学習塾では、**学力維持・向上のみに主眼**が置かれており、未来につながる教育としては十分なものとはいえない

⇒学力・学歴が重視される社会状況を再生産

結果的に現状を
肯定・追認する
対策



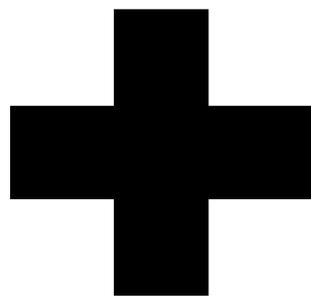
本当に必要とされるのは
現状を長期的に「更新」
していく政策ではないか？

目次

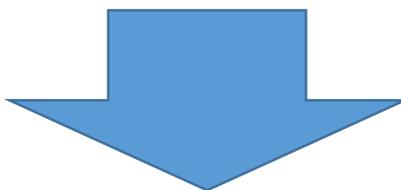
1. はじめに
2. 現状分析・課題
3. **政策提案**
4. おわりに

政策提案

子ども食堂



現代版寺子屋



新しい社会的成長プロセスを提供

新しい社会的成長プロセスとは

- 「新しい社会的成長」

＝学力や学歴の尺度では測定できない

現代社会で生きていくための能力・知恵や知的教養を学ぶ

学校での学習範囲を超えた広大な「学びのフィールド」を提供

- 日常生活のなかにある「疑問」／想像もつかないような「世界」

個々人の興味・関心を広げるきっかけ作り

- 「面白い」・「すごい」から始まる学び

親や先生とは異なる「大人」とのコミュニケーションの場

- それぞれに異なる人生観・子どもにとっては比較的近い世代

⇒ 個人の多様性・価値観の多元性を認め合う社会へ

子ども食堂



調理
自炊する力

「食育」の側面を
重視

片付け
整理整頓

食事
孤食対策

現代版寺子屋

- 学力の維持・向上ではなく、
子どもの社会的成長を促す仕組みづくり
⇒「大学都市」京都の特徴を生かす
多様な学部・専攻から子どもに学びの面白さ・奥深さを

に
ス

例えば

法学

社会の
ルール教育
(法教育)

経済・
経営学

お小遣いの
使い方教育

芸術学

身近な素材
で絵を描く・
演奏する

社会
心理学

印象の良い
自己紹介や
挨拶の仕方

歴史学

明智光秀からみ
る戦国時代

政策
科学

学校の通学路か
らみるまちづくり

スポーツ
科学

100m走の走り方
ドッジボールの
投げ方

文化
人類学

イヌイットから
学ぶサバイバル

政策実現にあたって予想される壁

人材面

人手が足りるほど集まるか
認知・魅力アピール

資金面

食材・教材の費用など

運営面

運営場所の確保など

政策を実現可能にするためには乗り越えることが必要

(1) 資金調達の問題

NPO法人「TABLE FOR TWO[©]」の仕組みを利用

◆ TABLE FOR TWO[©]とは...

対象となる定食や食品を購入すると、1食につき20円の寄付金が、NPOを通じて開発途上国の子どもの学校給食になるというプログラム

※20円＝開発途上国の給食1食分の金額先進国で1食

とるごとに開発途上国に1食が贈られるという仕組み

(1) 資金調達の問題

• TFTの仕組みを利用

企業・
大学

- 企業・大学食堂で教職員価格に一部上乘せ・選択制
- 資金を募る⇒社会貢献活動

元手

- 設備を整える
- 教育資源・調理器具・食材を揃える

運営

- 多様な学びの提供
- 学びの一つとして、調理指導・食事の提供(食育)

(2) 運営場所確保の問題

- 公共施設・学校など以外にも複数の選択肢を持つことが重要
- 京都府内の空き家も積極的に活用

府内約175,000戸

利用

空き家問題解消にも
貢献

(3) 人材の供給

運営主体となる学生へのメリット

☆各々の専門分野の知識を活用

☆様々な大学・学部で持ち回り協力; 負担の偏りを防止

☆大学でのインプットを

社会へアウトプットするトレーニング

⇒実践的な経験の獲得



目次

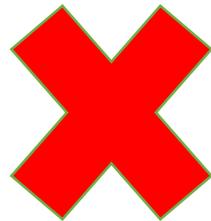
1. はじめに
2. 現状分析
3. 政策提案
4. おわりに

政策提案の最終目標

貧困家庭の子どもに
新たな社会的成長のプロセスを

家庭

Family



過程

Process

参考文献

1. 「京都市情報館」<http://www.city.kyoto.lg.jp/hagukumi/page/0000223856.html>
2. 厚生労働省「平成21年度 文部科学白書 第1章 家計負担の現状と教育投資の水準 図表1-1-14」
〈http://www.mext.go.jp/b_menu/hakusho/html/hpab200901/detail/1296707.htm〉 (2018年10月18日最終アクセス)
3. 厚生労働省「平成25年国民生活基礎調査の概況 II 各種世帯の所得等の状況 7 貧困率の状況」
〈<https://www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/hw/k-tyosa/k-tyosa13/dl/16.pdf>〉 (2018年10月18日最終アクセス)
4. 「厚生労働省」(平成28年度生活困窮者自立支援制度の実施状況調査集計結果)<https://www.mhlw.go.jp/file/06-Seisakujouhou-12000000-Shakaiengokyoku-Shakai/0000130392.pdf>
5. 「子ども食堂ネットワーク」<http://kodomoshokudou-network.com/start.html>
6. 「子どもの未来応援国民運動」<https://www.kodomohinkon.go.jp/policy/>
7. 特定非営利活動法人TABLE FOR TWO International 「table for twoプログラムの仕組み」 <http://jp.tablefor2.org/aboutus/>
8. 第1回京都市空き家等対策協議会(平成28年7月8日)参考資料「空き家の現状データ」
〈http://www.city.kyoto.lg.jp/tokei/cmsfiles/contents/0000203/203720/1_11_akiya_akiyadate.pdf#search=%27%E4%BA%AC%E9%83%BD+%E7%A9%BA%E3%81%8D%E5%AE%B6%E3%81%AE%E6%95%B0+%E4%BA%AC%E9%83%BD%E5%BA%9C%27〉
(2018年10月20日最終アクセス)
9. 鍋島祥郎(2003)「効果のある学校—学力不平等を乗り越える教育—」pp.36-44
10. 農林水産省「平成30年3月 子供食堂と地域が連携して進める食育活動事例集」
〈<http://www.maff.go.jp/j/syokuiku/set00zentai.pdf>〉 (2018年10月20日最終アクセス)
11. Edmonds, R.R., 1986, 'Characteristics of Effective Schools', in Neisser, U. ed., The School Achievement of Minority Children, Lawrence Erlbaum Associates Inc., pp. 93-104